

令和8年7月27日

第2回 市立四日市病院 あり方検討委員会資料

政策的医療について 【救急医療】



1 本日はご議論いただきたいこと

■ 以下の論点について、委員の皆様のご意見をお聞かせください。

論点1 今後、市立四日市病院は、救急医療においてどのような役割を果たすべきか

論点2 上記の市立四日市病院が果たすべき役割を踏まえ、どのような機能を維持・強化・縮小し、他医療機関とどのように役割分担・連携すべきか

2-1 救急医療における区分

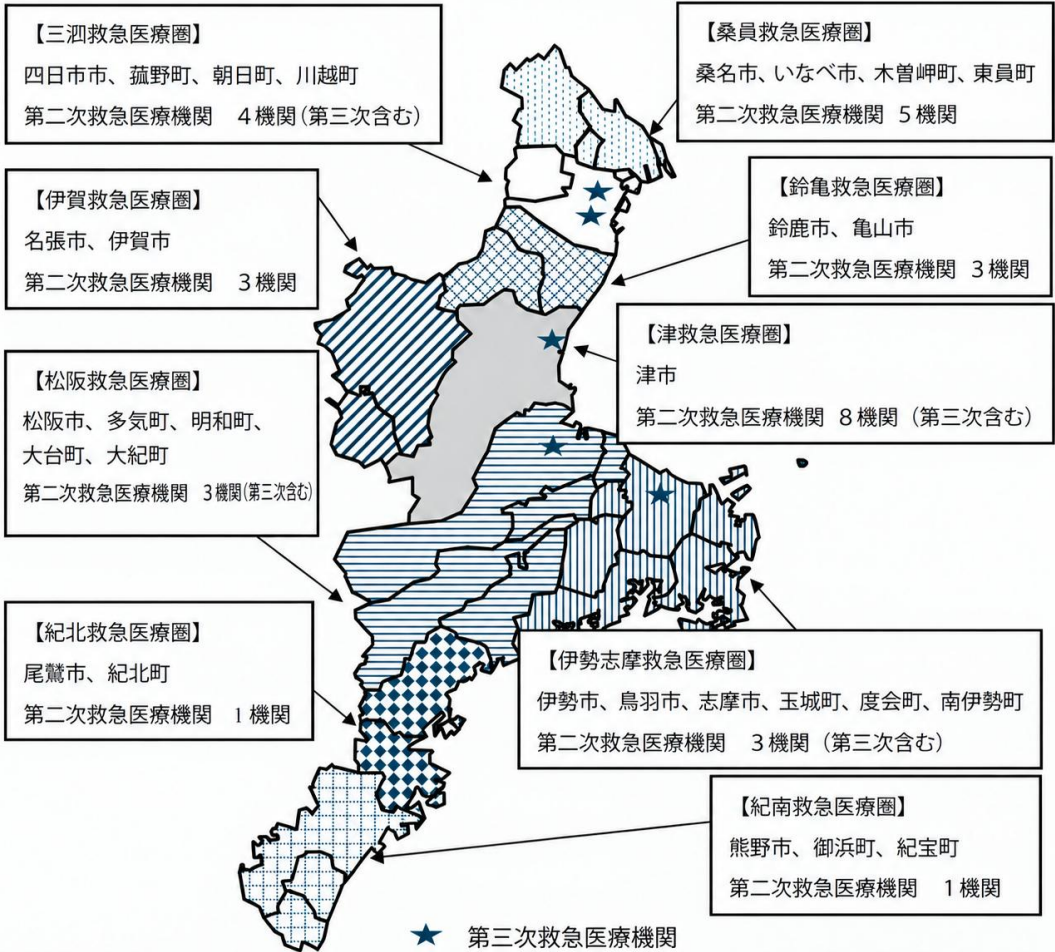
■ 救急医療は、軽症外来対応を担う一次救急、入院・手術を要する患者に対応する二次救急、重篤患者を24時間受け入れる三次救急に区分される。

区分	役割	備考
高度救命救急センター	特に重篤な救急患者に対して高度専門医療を提供する第三次救急医療機関	三重県内では三重大学医学部附属病院が指定
第三次救急医療機関	生命の危機にある重症患者を24時間体制で受け入れる医療機関	三重県内では5病院が指定 ※三重大学を含む
第二次救急医療機関	入院や手術を要する中等症救急患者に対応する医療機関	
初期救急医療機関	軽症の救急患者に対する外来診療を中心に行う医療機関	

2-2 救急医療圏について

- 三重県では病院前救護に係るメディカルコントロール体制等を考慮し、第二次救急医療に係る圏域(以下「救急医療圏」という。)を設定し、救急医療体制を構築している。
- 北勢医療圏では、救命救急センターが2病院あり、ともに四日市市内に所在している。

図表5-5-14 救急医療圏域



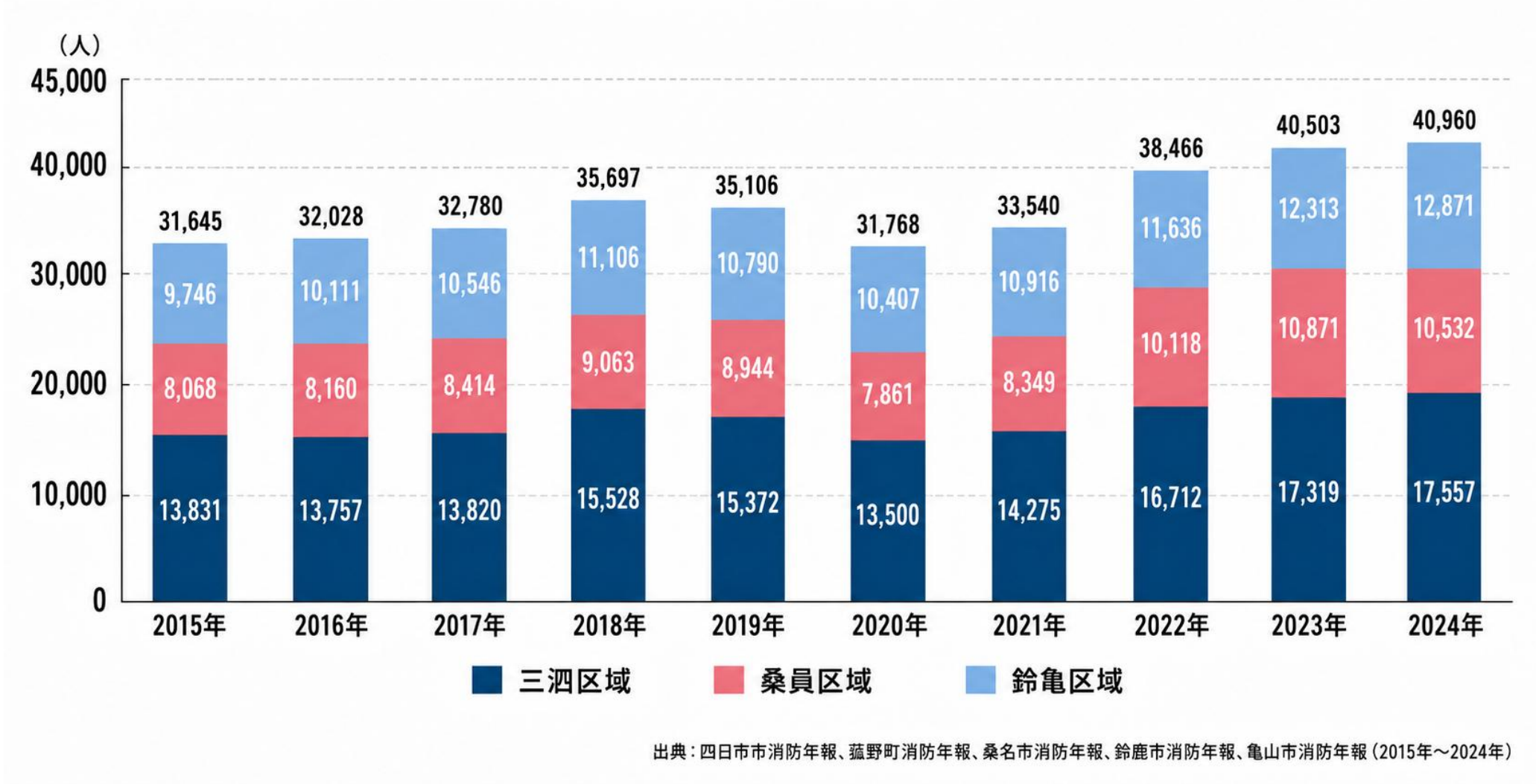
	第二次救急医療機関	第三次救急医療機関
桑員	桑名市総合医療センター 青木記念病院 ヨハナ丘の上病院 もりえい病院 いなべ総合病院	三重県立総合医療センター 市立四日市病院
三泗	三重県立総合医療センター 市立四日市病院 四日市羽津医療センター 菰野厚生病院	
鈴亀	鈴鹿中央総合病院 鈴鹿回生病院 亀山市立医療センター	

三重県では、構想区域8区域に対して、救急医療圏は9圏域で設定されている。(東紀州区域を南北でさらに区分)

3-1 北勢医療圏における救急搬送患者数の推移

■北勢医療圏の救急搬送は2022年を境に増加基調へ転じ、救急需要は高止まりしている。

※三泗区域 = 四日市市（朝日町、川越町含む）+ 菰野町



3-2 三泗救急医療圏における救急搬送患者数の推移

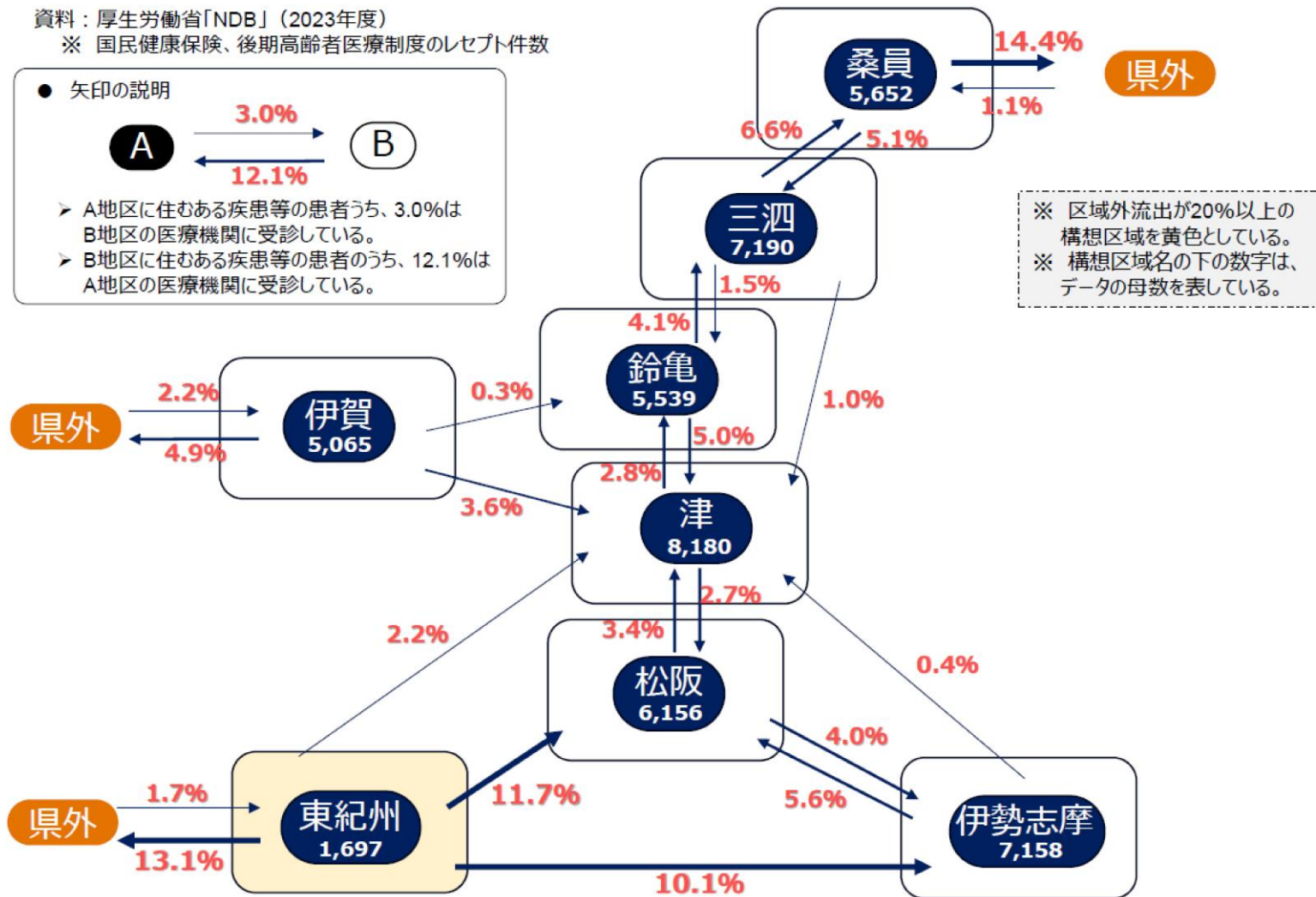
三泗救急医療圏の救急搬送は2022年を境に増加基調へ転じ、2024年は17,557人となっており、救急需要は高止まりしている。



出典：四日市市消防年報、菰野町消防年報、四日市市消防本部データ（2015年～2024年）

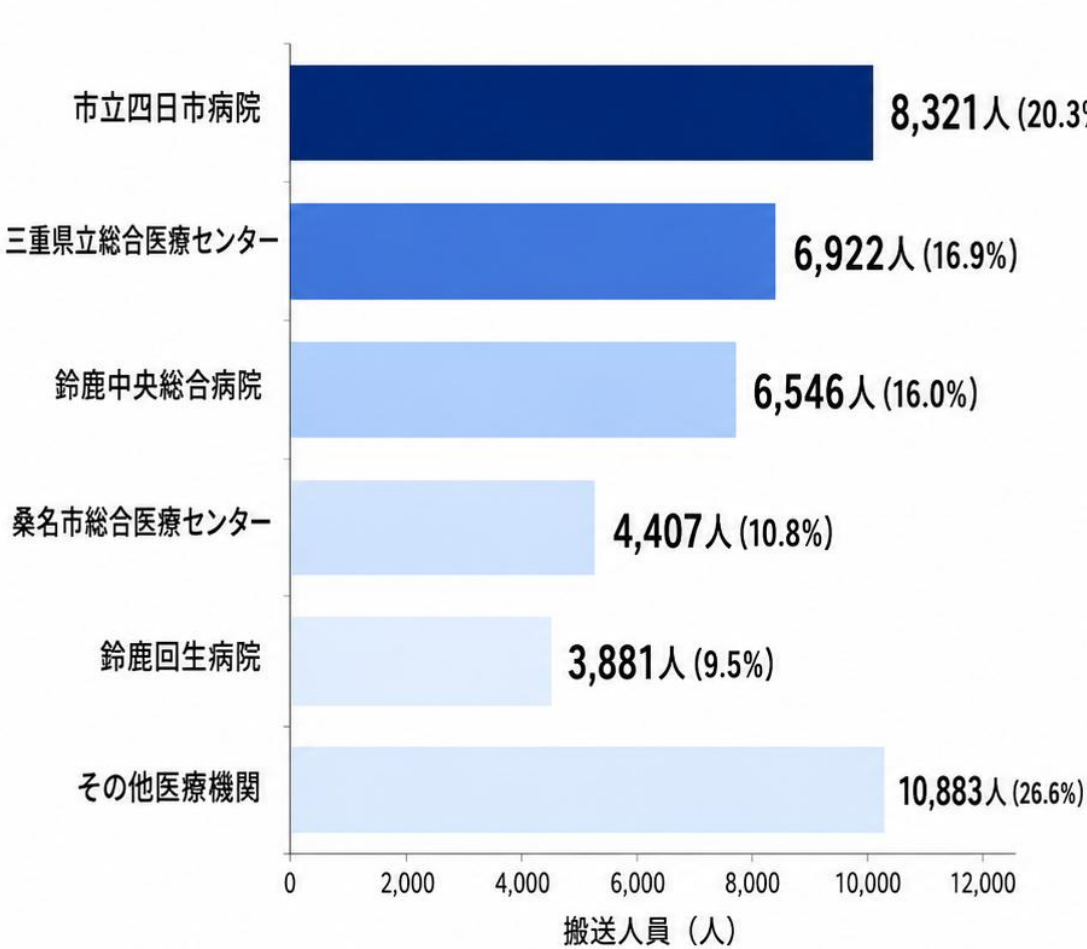
3-3 三重県内における2次救急医療(救急医療管理加算・救急救命管理料)の流出入割合

■北勢医療圏では、三泗が桑員・鈴亀の双方と双方向の患者流動を持ち、3区域の中で最も大きな母数を有している。一方、桑員は県外への流出が14.4%と、北勢内の区域間流動を上回っている。



3-4 北勢医療圏の2025年 医療機関別救急搬送人員

北勢医療圏の救急搬送は、市立四日市病院・三重県立総合医療センターの2病院に約4割が集中している。



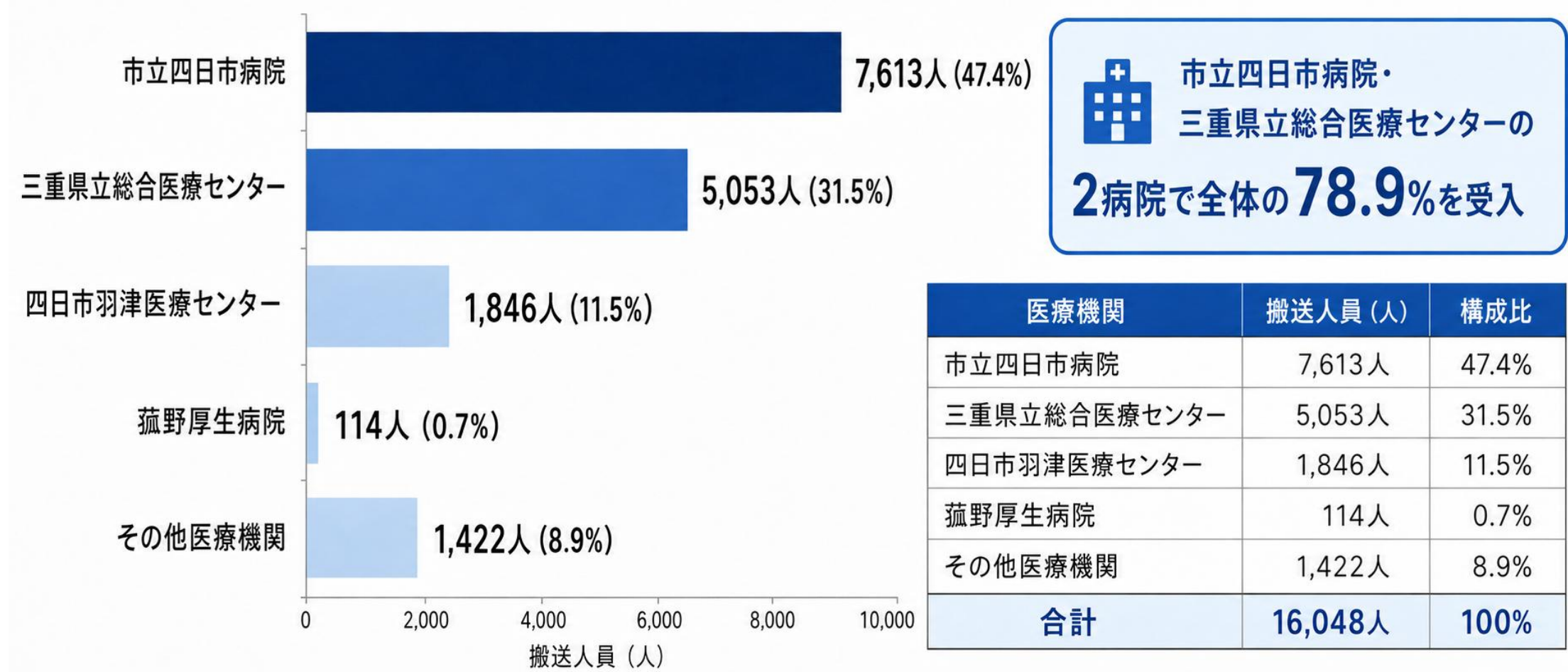
 市立四日市病院・
三重県立総合医療センターの
2病院で全体の **37.2%** を受入

医療機関	搬送人員 (人)	構成比
市立四日市病院	8,321 人	20.3%
三重県立総合医療センター	6,922 人	16.9%
鈴鹿中央総合病院	6,546 人	16.0%
桑名市総合医療センター	4,407 人	10.8%
鈴鹿回生病院	3,881 人	9.5%
その他医療機関	10,883 人	26.6%
合計	40,960 人	100%

出典：各消防本部消防年報（2024年搬送人員）
※「各厚生連病院・医療機能報告_救急車受入件数」の受入件数を差し引いた残差を「その他医療機関」として表示。
※消防本部の搬送人員と病院機能報告の救急車受入件数は、集計主体・定義が異なるため概算値。

3-5 三泗救急医療圏の2025年 医療機関別救急搬送人員

■ 三泗救急医療圏の救急搬送は、市立四日市病院・三重県立総合医療センターの2病院に約8割が集中している。



3-6 疾患分類別救急搬送数・搬送割合

重症度別にみても市立四日市病院は四日市消防管内搬送の4～5割を担っており、三泗救急医療圏における救急機能の中核として位置づけられる。

疾患分類	重症等	中等症	軽症	合計
その他	141人	428人	1,343人	1,912人
症状・徴候・診断名不明確	78人	174人	1,266人	1,518人
循環器系 心疾患	330人	168人	248人	746人
呼吸器系	34人	318人	246人	598人
消化器系	106人	151人	298人	555人
循環器系 脳疾患	185人	274人	26人	485人
打撲・血腫	2人	5人	357人	364人
泌尿器系	13人	82人	180人	275人
挫創	0人	3人	255人	258人
感覚系	9人	60人	179人	248人
非開放性骨折	43人	145人	59人	247人
その他外傷等	24人	20人	110人	154人
精神系	2人	9人	135人	146人
新生物	9人	77人	21人	107人
合計	976人 (43.5%)	1,914人 (46.0%)	4,723人 (49.0%)	7,613人 (47.4%)
四日市消防管内搬送数	2,243人	4,161人	9,644人	16,048人

※重症等には死亡を含む

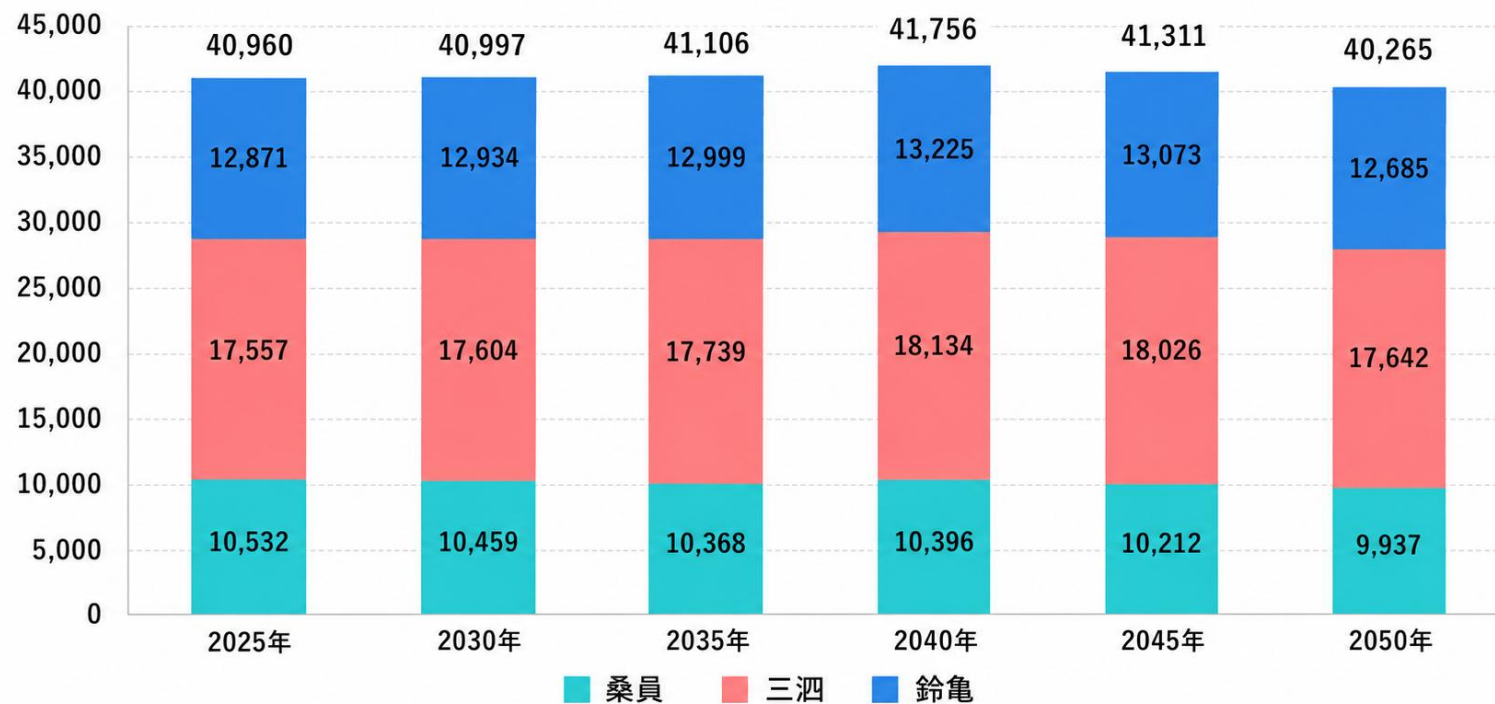
※その他外傷等には、その他（医療機関以外含む）、異物・誤飲、開放性骨折、開放創、刺創、神経・頸椎（髄）損傷、切創、多発外傷、脱臼・捻挫、窒息、中毒、内部損傷、熱傷・火傷を含む

※合計欄の割合＝市立四日市病院の搬送数 ÷ 四日市消防管内搬送数

（重症等：976人÷2,243人＝43.5%、中等症：1,914人÷4,161人＝46.0%、軽症：4,723人÷9,644人＝49.0%、総計：7,613人÷16,048人＝47.4%）

4-1 将来ニーズ 北勢医療圏における将来推計救急搬送患者数

- 北勢医療圏では救急搬送需要が増加基調で推移する一方、桑員・鈴亀では2040年以降に高齢者人口の伸びが鈍化し、北勢医療圏全体では2050年にかけて概ね横ばいとなる。



出典：桑名市消防年報、四日市市消防本部データ、菰野町消防年報、鈴鹿市消防年報、亀山市消防年報（2024年）

【推計方法】

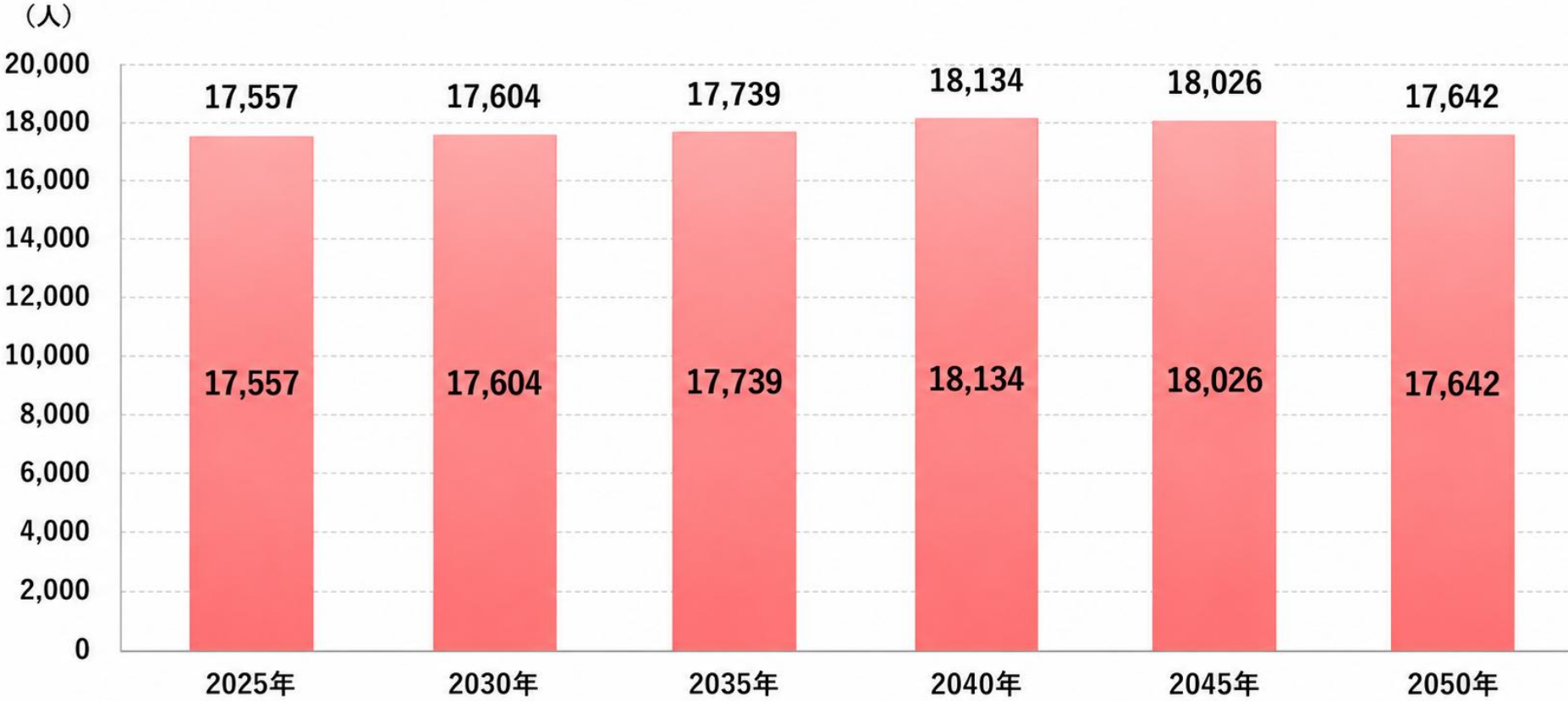
2024年の消防年報に基づく区域別・年齢階級別救急搬送人員を基準に、将来人口推計を掛け合わせて算出。北勢医療圏は桑員・三泗・鈴亀の合算。

【算出前提】

2025年値は、令和6年中の消防年報の搬送人員を基準にしています。桑員は10,532人、三泗は四日市・朝日・川越15,867人＋菰野1,690人、鈴亀は鈴鹿10,417人＋亀山2,454人です。桑名市・菰野町・鈴鹿市の年齢区分別搬送人員は添付年報から確認し、四日市市分は令和6年度消防年報の公表値を使用しました。推計は、各区域の救急搬送人員を0～17歳／18～64歳／65歳以上に分け、将来人口推計を掛けて算出しています。

4-2 将来ニーズ 三泗救急医療圏における将来推計救急搬送患者数

■三泗救急医療圏では救急搬送需要が増加基調で推移し、2050年にかけて概ね横ばいとなる。



出典：四日市市消防本部データ、菰野町令和7年度消防年報（2024年）

5 救急医療についてのまとめ

観点	データから確認できる事項	検討論点
 将来需要	救急搬送将来推計は、北勢医療圏/三泗構想区域のいずれにおいても増加(微増)し、2040年を境に減少(微減)に転じる見込みであるが、2050年時点でも2025年と概ね同水準となる。	救急医療においてどのような役割を果たすべきか ➡ 北勢医療圏の救命救急に対応するため、救命救急センターとしての機能を維持すべきか 等 ➡ 三泗構想区域内の地域住民の救急医療に対応するため二次救急医療機関としての機能を維持すべきか 等
 地域提供体制	北勢医療圏 - 三次救急医療機関として、市立四日市病院及び三重県立総合医療センターの2病院体制で対応している。 - 桑員構想区域においては、県外への患者流出が15%程度発生している。 三泗構想区域(=救急医療圏) - 上記に四日市羽津医療センター及び菰野厚生病院を加えた4病院で二次救急医療に対応している。	どのような機能を維持・強化・縮小し、他医療機関とどのように役割分担・連携すべきか ➡ 三次救急機能の2病院体制を維持すべきか、維持する場合はどのように役割分担・連携すべきか 等 ・ 脳血管疾患、心血管疾患、母体救命、重症外傷 等 ➡ 二次救急機能を他二次救急医療機関とどのように役割分担・連携すべきか 等 ・ 高齢者救急、小児救急、立地条件 等
 当院の状況	救急車受入件数が北勢医療圏、三泗救急医療圏のいずれにおいても最多であり、救急搬送から入院医療まで最大規模の救急医療を行っている。	